

花火大会が消える夏、プラネタリウムで新感覚花火体験！

「ハナビリウム ～花火って、なんであるの？」全国各地で待望の上映決定！！



東京の花火業者である株式会社丸玉屋（代表取締役：小勝 敏克、東京中央区日本橋）が制作したプラネタリウム番組「ハナビリウム～花火って、なんであるの？」が、全国14カ所のプラネタリウムで順次一般上映されます。新型コロナウイルスの影響によって夏の風物詩・花火大会が軒並み中止となっている今だからこそ、360度実写映像による圧倒的な花火鑑賞体験と、花火に込められた大切な物語をみなさまにお届けします。

- ・本来なら花火師にしか許されない、「花火の真下」からの奇跡の実写映像！
- ・地域のプラネタリウム施設で、今夏「も」大迫力の花火が見られる！
- ・宇宙・天文がメインのプラネタリウム界で、花火をテーマにしたコンテンツとしては異例の上映館数！
- ・「鎮魂・慰霊」「悪疫退散」「平和の象徴」花火の歴史には、引き継ぐべき大切な物語が詰まっている。
- ・子どもたちに向けて、花火がもっと好きになる『ハナビリウム新聞』現在制作中。

例年、約1,000カ所、約7,000万人もが足を運び、日本で最も愛されている催事ともいえる花火大会が、今夏は新型コロナウイルスの影響により中止・延期を余儀なくされています。このままコロナウィルスの終息が見通せない限り、約400年以上続く日本の花火文化が廃れていく危険性をも孕んでいます。

そんななか、6月1日に花火業者が声をかけあって打ち揚げた、全国一斉悪疫退散祈願「CHEER UP！花火」や、7月24日に日本青年会議所主体で開催された全国一斉花火プロジェクト「はじまりの花火」など、無観客、無告知、短時間で花火をあげ”希望や元気を届けよう！”というプロジェクトが広がりを見せています。SNSなどを通じて嬉しい感想を得ることで、私たち花火師自身も勇気づけられ、花火を届けようという気持ちを新たにしています。

例年通り花火を見ていただくことは叶わないけれど、花火を生業とするものとして、こういう時だからこそ、心に残る花火体験を届けたい。ハナビリウムは最新の映像技術を通して、本来なら花火師にしか許されない「花火の真下」から見上げる体験を始め、全く新しい花火の楽しみ方を提案しています。「疫病から始まった日本の花火大会」という花火の歴史や、科学、文化、アートの世界が詰まっており、子どもたちの夏休みの自由研究にも活用していただける内容です。

この機会にぜひ、本事業についての取材・周知へのご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

実施概要

名称：「ハナビリウム ～花火って、なんであるの？」全国プラネタリウム館一般上映
会場：全国各地14館のプラネタリウム、ドーム施設（*7/30現在・詳細別紙。追加参加施設募集中）
主催：株式会社丸玉屋
配給：株式会社五藤光学研究所
関連リンク：ハナビリウム 公式サイト ▶ <https://www.hanabirium.com/>
株式会社丸玉屋 ▶ <http://www.marutamaya.jp/>

【本件に関するお問い合わせ】TEL(03-3241-6538)
株式会社丸玉屋 担当：島野 (shimano@marutamaya.co.jp)

「ハナビリウム～花火って、なんであるの？」とは

花火×プラネタリウムの競演！

現役花火師らが10年の試行錯誤の末に完成させた、子どもたちに届けたい花火の物語。

株式会社丸玉屋が、花火と同じように「空を見上げる」プラネタリウムで、**保安上花火師しか体験できない「花火の真下」の美しい世界を見てほしいと、10年にわたる試行錯誤の末、2019年に完成。**
360度全方位プラネタリウムでの観覧を想定してデザインされ、実際に打ち揚げられたおよそ5,000発もの花火実写映像に加え、これまであまり知られることのなかった花火の歴史や文化にも焦点をあて、CGアニメーションを通してひも解かれる**花火界初のフルドーム教育映像作品**。主人公の“花火の子ども”を演じる声優には、フレッシュな子役を迎え、日本アカデミー賞俳優でもある**田中泯氏**が、脇を固める。
今年2月に開催された第12回恵比寿映像祭「時間を想像する」（主催：東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館・アーツカウンシル東京／日本経済新聞社）では、恵比寿ガーデンプレイスに直径13mの仮設ドームを設置し、計192回の投影を実現。世代を超えて多くの観客を魅了した。
特に、**大きな音や人混みへの恐怖や、車いすなどによりこれまで花火大会に足を運びづらかった方々からも、高評価をいただいております。**これからの花火鑑賞体験の幅を広げる可能性を秘めている。

<ストーリー>

花火の学校に通っている主人公ヒバナは、実は落ちこぼれ。今日も学校をさぼって森の中へ行くと、そこで、謎めいた"けむりのおじいさん"と出会う。

「ボク、自信がないんだ。友達みたいにきれいな花火になんかなれないよ。無理なんだ。」
そんなヒバナを見かねたけむりのおじいさんは、色とりどりの花火のしくみや魅力について、ユーモアたっぷりに語りはじめる。その世界に引き込まれるヒバナは、次第に、知られざる花火の歴史にも向き合っていくことに。

<クレジット>

●声の出演

ヒバナ：太田葵

ともる：北原十希明

けむりのおじいさん：田中泯

<「ハナビリウム～花火って、なんであるの？」トレーラー映像>

<https://youtu.be/zbxyV6HcwZA>

●スタッフ

総合監修：小勝敏克 / 企画・演出：岩野成 / 制作・演出：島野玲、島田清夏 / プロデューサー：森田菜絵 /
脚本：新井章仁 / 映像ディレクター：河上裕紀 / 花火撮影・編集：佐藤 宏、春日賢一 / 音楽：斉藤尋己 / サウンドデザイン：河村大 / 宣伝美術：真家亜紀子 /

花火撮影・編集：アクアジオグラフィック株式会社 / 立体音響録音：ヤマハ株式会社 / CG/VFX：株式会社オムニバス・ジャパン / プロデュース：株式会社マアルト / 配給：株式会社五藤光学研究所

企画・製作・著作：株式会社丸玉屋

2019／25分／4Kドームマスター／5.1ch.サラウンド



【本件に関するお問い合わせ】TEL(03-3241-6538)
株式会社丸玉屋 担当：島野 (shimano@marutamaya.co.jp)

2019年に特別上映会を行った際のアンケートによると、年代問わず8割以上の方が「大変満足・満足」と回答している。また、「おもしろかったもう一回みたい たのしかった！」（小学生）、「素晴らしかった！感動してボロボロ泣いてしまいました。」（30代）、「花火は観るだけで、歴史とか知らなかったの、ぜひまた見てみたいです。特に、花火師からの視点の花火をそれだけでも面白いと思います。」（30代）などの感想が寄せられている。

神奈川県伊勢原市にある伊勢原市こども科学館では“今年の夏はプラネタリウムで花火を楽しもう！”をキャッチフレーズに7月23日から上映を開始した。見終わった親子は「プラネタリウムで花火を見るのもいいなと思いました(子ども)。間近で見れて興奮しました(親)！」科学館のスタッフからは「コロナ対策として110席を45席に減らし、予約制で運営しています。360度スクリーンならではの花火映像、音楽、歴史、科学、見る人によって気に入る場面があることが良い。花火が揚がるシーンでは子どもたちの歓声が聞こえます。」と話す。

制作者である株式会社丸玉屋の岩野取締役は「花火師しか観られない視界を表現するために、徹底的にこだわって創りあげた作品です。驚きの世界がここに 있습니다。ただ、本当に大切にどうしても伝えなかったことは、この驚きではありません。これまで、子供たちには紐解けなかった花火の真実を伝えることこそが、この作品の使命です。きっと届くはず。」と語る。

配給を担当する株式会社五藤光学研究所の熊切氏は「天文・宇宙を題材とするプラネタリウム番組の中で、この「ハナビリウム」は異色の作品ですが、お客様であるプラネタリウム担当者からは高評価。また、作品を観た来館者の満足度も高いです。今年だけでなく長い期間で全国の施設で配給される作品だと確信しています。」と期待を寄せる。

株式会社丸玉屋は花火を忘れてほしくない、本物の花火大会を見ることを楽しみにしてほしい、という思いから、“ハナビリウム新聞”の発行計画を進めている。紙面では作品に登場する花火の知識などを復習できるほか、楽しく遊んで学べるものを目指している。

今年の夏は、時代を経て育まれた花火の物語をぜひお近くのプラネタリウムに足を運んで体験してほしい。そして、日本の夏の風物詩が復活した際には、大きく咲き乱れる美しき火の光と音と匂いを五感で味わいたいと切に願う。日本の花火に込められた大切なメッセージとともに。

コメント詳細

株式会社丸玉屋・取締役 岩野成氏（企画・演出）

「花火師しか観られない視界を表現するために、徹底的にこだわって創りあげた作品です。驚きの世界がここに 있습니다。ただ、本当に大切にどうしても伝えなかったことは、この驚きではありません。これまで、子供たちには紐解けなかった花火の真実を伝えることこそが、この作品を創る原動力になったしこの作品の使命です。日本は平和の国である。しかし、かつては、世界で最もたくさんの鉄砲を持っていた時代がある。鉄砲を撃つ原料は火薬である。花火もまた原料は火薬である。日本人は、鉄砲を捨て、人を殺めるための火薬を花火に変えた。花火大会は「飢饉」と「疫病」で亡くなった命を弔うことに起源がある。花火には「平和」「慰霊」、そして「祈り」が共生しています。日本の花火の真実はここに 있습니다。花火大会では伝えられない。プラネタリウムならば伝えることができるのです。」

伊勢原市こども科学館スタッフ

「110席から45席ほどに減らし、予約制で運営しています。花火大会がない状況で、伊勢原市こども科学館では花火が見れる、“今年の夏はプラネタリウムで花火を楽しもう！”というキャッチフレーズで来館頂いています。360度スクリーンならではのリアルな花火映像、映像とマッチした音楽で花火の世界に浸れることが気に入っています。他のスタッフの感想では、花火の歴史が良かった、平和の大切さを若い人にも見てほしいという声があったり、科学的な場面があって良かったという声もあり、見る人によってそれぞれ気に入る場面があるというのがとても良い番組だと思いました。花火が揚がるシーンには歓声が上がります。」

たまたま家族で伊勢原市こども科学館に見に来たというご家族（2組）

11歳男の子「プラネタリウムで花火見るのもいいなと思いました。」
父親「初めてプラネタリウムで初めてみて、本物の花火より間近で見られてすごく興奮しました！」

6歳男の子「楽しかった！花火がきれいに見えた。」
父親「しばらく花火大会見れないと思いますし、新しい発想で、花火師しか見れない世界がいいと思います。」

株式会社五藤光学研究所 熊切邦彦氏（配給）

「天文・宇宙を題材とするプラネタリウム番組の中で、この「ハナビリウム」は異色の作品ですが、お客様であるプラネタリウム担当者からは高評価。また、作品を観た来館者の満足度も高いです。やはり360度見まわすスクリーンを持つプラネタリウムドームで、花火の映像に囲まれる体験は独特な臨場感が魅力であり子供たちは素直に喜んでくれます。意外なのが保護者の方がそのストーリーの中で知ることになる歴史や文化面に感動されています。迫力だけではなく炎色反応の科学的知識や疫病退散の文化、武器利用の歴史など複数の教科において「へえ～、なるほど」が得られる優れた作品であるとの手応えがあります。今年だけでなく長い期間で全国の施設で配給される作品だと確信しています。」

【本件に関するお問い合わせ】TEL(03-3241-6538)
株式会社丸玉屋 担当：島野 (shimano@marutamaya.co.jp)

「ハナビリウム～花火って、なんであるの？」上映館リスト



岩手県盛岡市・盛岡市子ども科学館 (1/4(2021)～3/31)
 宮城県大崎市・大崎生涯学習センター (パレットおおさき) (9/19～)
 東京都多摩市・ベネッセ・スター・ドーム (8月1日～再上映)
 福岡県北九州市・北九州市立児童文化科学館 (上映中～9/27)
 福井県福井市・セーレンプラネット (福井市自然史博物館分館) (上映中)
 三重県四日市市・四日市市立博物館・プラネタリウム (上映中～8/31)
 岡山県倉敷市・倉敷科学センター (上映中～8/30)
 香川県高松市・さぬきこどもの国 (上映中～8/31)
 愛知県刈谷市・夢と学びの科学体験館 (上映中)
 広島県広島市・広島市こども文化科学館 (上映中～1/17(2021))
 神奈川県伊勢原市・伊勢原市立子ども科学館 (上映中～8/12)
 群馬県太田市・ぐんまこどもの国児童会館 (8/1～)
 東京都東大和市・東大和市立郷土博物館 (8/1～9/13)
 福岡県久留米市・福岡県青少年科学館 (8/5のみ上映)

全国各地14都市、14館 (*7/30現在。随時追加中)

各館コロナ対策として人数の制限などを行っております。上映時間等につきましては、各館のHPをご覧ください。
 感染状況によっては変更となる場合があります。



恵比寿映像堂での投影の様子



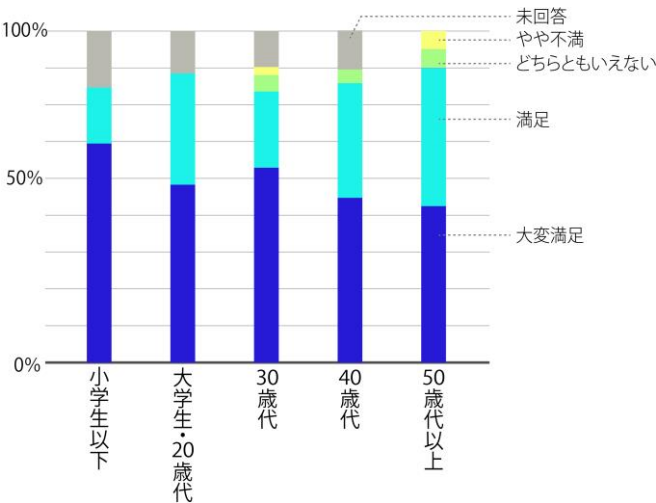
プラネタリウム 館での上映の様子

【本件に関するお問い合わせ】TEL(03-3241-6538)
 株式会社丸玉屋 担当：島野 (shimano@marutamaya.co.jp)

ハナビリウム
 HANABIRIUM

すべての年代において、8割以上の方より「大変満足・満足」の回答

■コスモプラネタリウム渋谷
<2019年7月実施>

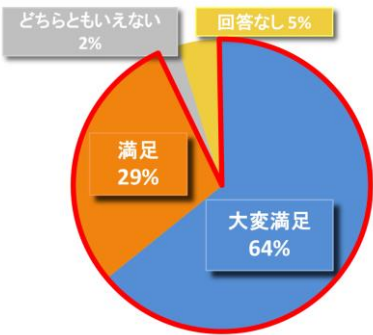


自由記述コメント抜粋

- 「もういっかいみたいです」（4歳） 「おもしろかったもう一回みたい たのしかった！」（小学生）
- 「とても興味深くみた。またこういった番組を定期的に見ることができたらいい」（20代）
- 「素晴らしかった！感動してボロボロ泣いてしまいました」（30代）
- 「花火は観るだけで、歴史とか知らなかったのも、ぜひまた見てみたいです。特に、花火師からの視点の花火をそれだけでも面白いと思います」（30代）
- 「花火の美しさに加え、大変文化的価値のある内容に感動しました。ありがとうございました」（40代）
- 「映像の美しさ、花火会場にいるような臨場感を味わえて満足。花火の成り立ち→化学的教養、花火を楽しめる今の世の中の幸せ→反戦意識、いろいろな要素が入っている番組」（50代以上）
- 「知らないことばかりで興味深かったです。子供の夏休みの宿題のネタになりそうです」（50代以上）

■大崎生涯学習センター（パレットおおさき） <2019年8月実施>

番組の感想を一つお選びください



小学生 中学生	・キレイだし勉強になる。ためになるなど一石二鳥。
	・楽しかった。ものすごく大満足した。また絶対見たいと思った。ものすごく楽しかった。
	・花火について知ることができて、良かったです。
30代	・プラネタリウムでの花火、初めて見ました。本当にすごく感動しました。 ・感動しました。プラネタリウムが少し苦手な子ども(4才)もたのしめたようです。
40代	・花火がみられることの幸せを大切にしたいと思いました。いろんな花火の名前や歴史を知ることができて楽しかったです。
	・みんな違ってみんないい、これから子どもたちに必要だと思う。ストーリーにつまっていたことがとてもよかった。年長～小学生にぜひ見てもらいたい。
	・花火大会のある6月～上映して、これを見てから花火を見るとまた違う気持ちで味わえると思う。

「満足」または「大変満足」を選んだ方の割合（年齢別）

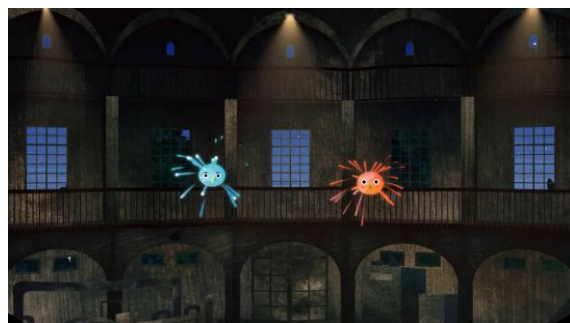
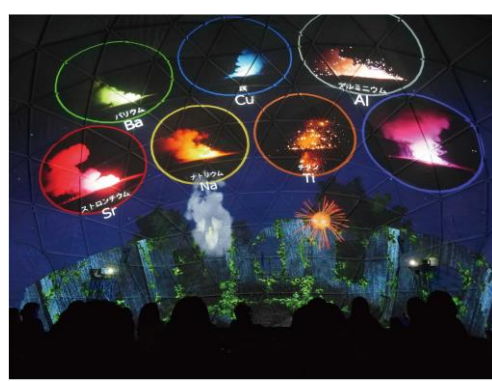
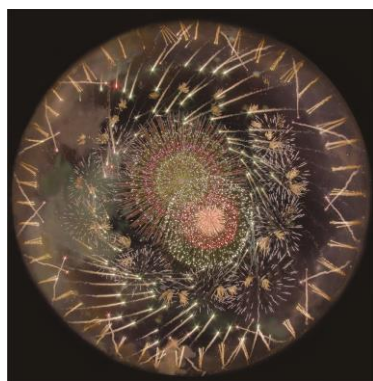
未就学児	小学生	中学生	20代	30代	40代	50代	60歳以上
90%	90%	100%	100%	100%	91%	100%	100%

株式会社丸玉屋について

東京・日本橋に拠点を置く、花火ショーの開発、制作、プロデュースを専門とする会社。1995年、日本国内では初めての試みとなるコンピュータ・プログラミングで〈花火〉と〈音楽〉をシンクロさせる最新の花火ショーを実施。以来、国内外問わず、各地の花火大会やテーマパークなどで実績を積み上げている。国内においては、「世田谷区たまがわ花火大会」、トラスタワーを使った最新花火演出が圧巻の日本最大級の花火ショー「みなとみらいスマートフェスティバル」など、〈花火の新たな可能性〉〈新しい美の領域〉を追求し続けている。

2013年「東京国体開会式」では、日本初となる味の素スタジアムのルーフトップから花火を打ち揚げ、オリンピックの開会式さながらの花火演出で大きな話題となった。打ち揚げ玉ばかりでなく、小型の花火を効果的に用いることにより、音楽との完璧にシンクロするハイスピードのパフォーマンスを得意としており、細かな角度まで綿密に計算された打ち出し、それを可能にする全国に類を見ない花火機材の豊富さを武器に、全国各地の様々なシーンで花火を手掛け、その会場の特性に合わせた演出技術やプロデュース力を高く評価されている。

参考画像 *画像がご入用の際は、別途お問い合わせください



【本件に関するお問い合わせ】 TEL(03-3241-6538)
株式会社丸玉屋 担当：島野 (shimano@marutamaya.co.jp)